

鋼鉄線の張力と圧力で
金属塊を空中に固定させる
TC(Tension and Compression)
シリーズで知られる金属彫刻で、
奇妙で不思議な空間を創出

謎めく混成体ふたたび

— 篠田守男の新作に寄せて

水沢 勉 (神奈川県立近代美術館 館長・美術評論家)

篠田守男(1931～)は成分表示のきわめて困難な合成物である。わたしは、いまだその詳細を充分に知らないままの「入門」前の身だが、こっそり覗きみると、作品も、作者も、いつまでも若く瑞々しい秘密は、きっとその得体の知れなさに隠されているのではないかとかねがね疑っていた。昨春にKOKI ARTSで開かれた真島明子(1952～)との二人展「BEYONDNESS」。大いに期待して観にかけた。しかし、真島の、解放系の周囲の空間を味方につける深呼吸しているような大作に圧倒され、精妙な篠田守男の世界は、閉じて、やや委縮して感じられた。正直不満がすこし残った。

そして今回の新作展である。

その独特の繊細さは、やはり個展でこそ際立つにちがいない。そこには見えない世界との糸が文字通り張りめぐらされているからである。

たとえば、新作のひとつ《シュヴァンクマイエルの不思議な世界》(2016)。まさしく「驚異の部屋」をアニメーションや実写で召還する、このヤン・シュヴァンクマイエル(1934～)というブラハの異能の映像作家と、一見、クールで無表情な技術者を思わせる篠田守男の取り合わせは、意外な印象を最初にあたえるかもしれない。しかし、この0.45mmの細いワイヤーが宙吊りする「空中楼閣」もまたひとつの幻視であり、危うく成立した蜃気楼ともいえよう。それは、見方を変えれば、三千世界をつなぐ「インドラの網」もあるのだ。そこには肉体の気配が確かに、どこかに仕掛けられている。シュヴァンクマイエルの代表作のひとつ「ファウスト」(1994)で、木製人形の股間に大きな錐

で穴を開ければ、男であったはずの人形が女に変身するシーンがあった。篠田の作品にも、それに通じるようなサド的である同時にマゾ的な感覚が封印されているのだ。

篠田守男のエロスとテクネの混成体は、ふたたびわたしたちの身体感覚を疼かせ、視覚をまるごと刷新するだけでなく、まさしく全感覚的な未知の領域へと身も心もふたたび誘惑してくれるに違いない。



MORIO Shinoda

2016.4.8 (FRI) ▶ 2016.4.29 (FRI)

AM 10:30 ~ PM 7:00 最終日 PM 5:00まで ※会期中無休

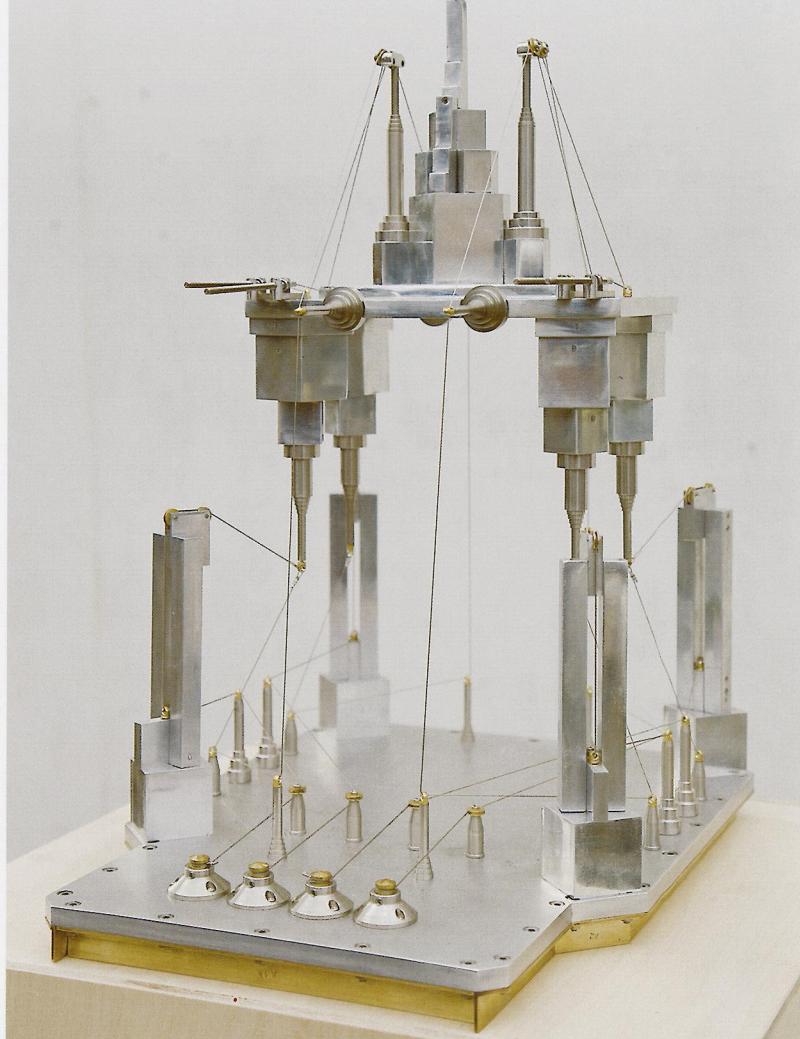
gallery uchiyama

〒104-0061

東京都中央区銀座 6-5-12

新堀ギタービル銀座 4階

TEL 03-3573-1439



篠田 守男 展

2016年4月8日(金)～4月29日(金)

AM 10:30～PM 7:00 最終日 PM 5:00まで ※会期中無休

選択の芸術

篠田 守男 (筑波大学名誉教授・彫刻家)

われわれの芸術は選択より始まる。絵を描く、木や石を彫る、版を刷る。それぞれの技術を獲得したうえで造形に進む。しかしそのすべてが作品になるわけではない。むしろすべてが作品にならないことが多いのである。作家達の多くがこのプロセスをぶんでいる。

私は作品を効率良く作り、短時間で完成させることを良しとする。すでに頭の中にあるものを具体化するのであるからプロセスは早い方がよい。

しかし我が国では長く苦しむことに満足をおぼえる。いわばマソヒスト的理論である。具体化の悩みより頭に中で組み立てるほど試練を必要とし、苦しみ、悩み、ジレンマする。これが制作上の肉体行為よりどれほどつらいかというと自由だからである。

この度の展覧会では既に私自身が作りためてる部品を組み合わせて作っている。このときが私にとってひと時の快楽である。丁度、建築家コルビジェが積み木遊びをするように。中には数十年もたった部品が、この日を待ってたかのように生き生きとよみがえる。記憶の片隅にあった造形が生々しくまた刺々しく、攻撃的に甦ってくるのである。

略歴

1931年	東京都出身
1952年	通産省勤務 大臣官房涉外課(～54)、工業技術院産業工芸試験場(54～67)
1953年	青山学院大学文学部英米文学科中退
1963年	アートインスティテュート・オブ・シカゴに留学(～64)
1964年	第15回秀作美術展招待 東京 第1回長岡現代美術館賞展招待 長岡現代美術館・新潟
1964,65年	現代美術の動向展招待 国立近代美術館京都分館
1965年	第1回現代日本彫刻展 神奈川県立近代美術館賞受賞 宇都宮野外彫刻展招待 宇都宮野外彫刻美術館・山口 第8回日本国際美術展 東京都美術館 現代日本の絵画と彫刻展選抜 ニューヨーク近代美術館・アメリカ 第1回ジャパン・アート・フェスティバル ニューヨーク・アメリカ
1966年	第33回ベニス・ビエンナーレ日本代表 イタリア 第9回高村光太郎賞受賞 ヒューストン・ファイン・アート・ミュージアム付属美術学校講師として渡米(～67) 第9回国際美術展招待 東京都美術館 第2回ジャパン・アート・フェスティバル招待 ヒューストン・アメリカ グッゲンハイム美術館 国際彫刻展に招待 ニューヨーク・アメリカ メキシコ国立大学で個展開催 大阪万国博に招待
1968年	カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員教授(～70)
1971年	サンフランシスコ100年祭展に招待
1973年	第4回中原悌二郎賞優秀賞受賞 第1回彫刻の森美術鑑賞大賞受賞
1974年	第2回彫刻の森美術館賞優秀賞受賞
1976年	コロラド州立大学およびミネソタ大学客員教授として渡米(～77)
1979年	筑波大学芸術学系教授(～94)
1991年	第4回朝倉文夫賞受賞
1994年	長崎大学大学院専任教授(～96)
1995年	篠田守男 水力発電所展 下山芸術の森発電所美術館・富山
2000年	国際彫刻センター(ISC)優秀彫刻教育賞受賞 ※アジア人初受賞
2003年	金沢美術工芸大学大学院専任教授(～09)
2005年	12人の挑戦 - 大観から日比野まで 水戸芸術館現代美術ギャラリー・茨城 様々な素材から生まれた彫刻 - コレクションより 箱根彫刻の森美術館・神奈川

モニュメント

- 東急田園都市線・たまプラーザ駅前 "TC-4705 COSMOS" (1966年制作)
- IBM飯島ビル "TC-4706" (1989年制作)
- 西新宿・東京都庁 第2庁舎1Fメインフロア正面壁 "TC-5802 空中庭園" (1989年制作)

コレクション

- ルイジアナ美術館 (デンマーク)
- ヒューストン警察本部庁舎ビルディング
- ヒューストン・ファインアーツ美術館
- ダラス・ニューマーカス・デパート
- ニューハウス (N.Y.)
- フレデリック・ワイスマンズ・コレクション (I.A.)
- NYロックフェラー・3世夫人 (N.Y.)
- アムフレッド・シュメラー (ドイツ)
- ウィリアム・リバーマン (メトロポリタン美術館)
- 東京国立近代美術館
- 神奈川県立近代美術館
- 東京都現代美術館
- 広島市現代美術館
- ふくやま美術館
- 栃木県立美術館
- 高松市美術館
- セゾン現代美術館
- 彫刻の森美術館
- 豊田市美術館
- 徳島県立近代美術館
- 札幌野外彫刻美術館
- 旭川彫刻美術館

